

NEWS

●ニュース

J-オイルミルズ、食用油脂の劣化制御で栄養・食糧学会「技術賞」

【株】J-オイルミルズ(東京都中央区、〒103-5148-7103)と東北大学大学院農学研究科の共同研究「食用油脂の劣化制御に資する新たな技術の開発と先導的な環境負荷低減策の提案」が、2024年度日本栄養・食糧学会の技術賞を受賞した。

同賞は、栄養科学または食糧科学の発展に寄与する産業上の技術開発に授与さ

れるもの。食用油脂の劣化指標に関する新たな知見が得られたことで、長持ちするフライ油の商品開発や、フライ食品の品質劣化を抑える管理方法の提案が可能となった。

同社では、「国内で消費される油脂の廃棄量削減に向け、環境負荷低減策を継続的に提案していきたい」としている。

日本珪素医療研究会、沖縄で初開催 水溶性ケイ素の抗ストレス、血圧低下作用などヒト試験の結果など報告

日本珪素医療研究会(東京都中央区)による学術発表会が6月1日、メルキュールホテル沖縄那覇で行われた。冒頭の挨拶で、同研究会事務局長の岡田憲己氏は、学術発表会は初の沖縄開催で、かつ従来は医療関係者のみの参加だったが、今回は水溶性ケイ素の販売会社等、一般参加者にも開放した初の学術発表会である旨を紹介。また、台風の影響で長時間掛けて来沖した参加者にお礼と労いの言葉を述べた。

医療法人白寿会ハートフルクリニック院長の平良茂氏は、「ケイ素の性質、医療への応用」と題し講演。珪素の役割として、コラーゲン繊維を整えて固めることで骨の強化作用、消化管内でアルミニウムと結合して排泄する作用、ナイーブT細胞を抗がん免疫のTh1に誘導する免疫賦活作用、爪や髪・肌の健康維持などアンチエイジング作用など様々な有用性があることを紹介。一方で、40歳を過ぎると体内の珪素量が幼児期の半分に減少することから、吸収率の高い水溶性ケイ素を積極的に摂取することが望ましいと述べた。

続いて、(株)令和メディカルリサーチ医学研究所所長の神保大樹氏が、「水溶性ケイ素による血圧改善作用の期待」と題し講



沖縄で初開催



平良氏



神保氏

演。APAコーポレーション製の水溶性珪素umo®濃縮液を用いたヒト臨床試験の結果を紹介した。試験は平均年齢41歳の健康成人12人を対象に、水溶性珪素umo®濃縮液を1日9mL(朝昼夕、食後に各3mL)を6週間摂取させた。その結果、摂取前後でストレス反応が有意に低下、また拡張期血圧、収縮期血圧とも有意な減少が観察された。さらに加速度脈波計測による自律神経の分析結果として、SDNNの有意な減少およびPSSIの有意な上昇を観察。結論として、水溶性ケイ素の摂取は、血圧の低下およびストレス緩和作用に繋がる可能性が示唆された。

連載③

海外ヘルスケア最前線

新型コロナが世界中で収束する中、海外のヘルスケア市場の成長率は高い。新しいニーズが生まれ、新素材や新商品、新サービスなどが続々登場している。欧米を中心としたヘルスケアビジネスに携わり、健康食品事業を手掛ける田中啓之氏(オクトロール(株)代表取締役社長)が、変化する海外ヘルスケア市場の動向などを紹介する。第3回目は、5月にスイス・ジュネーブで開催された「Vitafoods Europe」からみる欧州のトレンドを報告する。

スイス・ジュネーブで、5月14~16日に「Vitafoods Europe」(主催:インフォマーケッツ)が開催されました。Vitafoods Europeは欧州最大の機能性原料展示会で、160ヵ国以上から2万人以上が来場しました。同展示会については26年間ジュネーブで開催されてきましたが、来年からはバルセロナに移転することが決定しており、スイスでは最後の開催となりました。

今回は現地視察からの私見、及び会場で開催された「Nutraingredients Awards 2024受賞式」での原料・製品の顔ぶれを通して、現地トレンドを紹介させていただきます。

会場ではプロバイオティクス展示が増えている印象を受け、腸脳相関を意識したものも散見されました。また、米国市場同様にキノコ由来原料も多く、免疫作用からアダプトゲン作用を訴求するものまで、品種も多種多様でした。弊社グループ会社も出展し、新規原料を展示し、プレゼンセミナーも実施致しました。植物由来エキス末をベースに、整腸作用、

腸脳相関にもとづく抗ストレス作用、アダプトゲン作用を訴求した原料で、サプリメント形状のみならず、様々な剤型に配合可能なものとなっています。会期中は多くの来場者が訪れ、手応えを感じました。

日本や米国同様、フェムテック領域への関心も高く、女性のライフステージに合わせた処方提案など、良い意味でセグメントが細分化されてきており、市場の盛り上がりを感じます。

こうしたトレンドは先述のAwards受賞原料・製品にも反映されており、受賞した11部門の内、4つまではフェムテックに関するものでした。内訳としても原料領域の整腸作用部門、女性健康部門、製品領域のボタニカル部門、整腸部門、と多岐に渡っています。

また、コロナ禍により市場に定着した免疫や安眠、抗ストレス領域でも原料・製品ともに複数受賞が見られ、キノコ由来の製品もありました。ヘルシーエイジング部門では、NR(ニコチンアミドリボシド)が受賞。NMNの取扱いが難しい欧州市場ならではの受賞原料だと思えます。

このほか、男性ホルモンであるテストステロン産生を訴求する製品の受賞も見られ、エイジングケア領域に対しての関心が高いことも伺えました。

Octroll(株)代表取締役社長 田中啓之氏
2003年住友商事(株)入社以来、一貫して食品・食料関係の業務に従事し、同分野での事業投資や新規開発業務を、アジア・オセアニア各国にて担当。2010年から米国住友商事ポートランド店への駐在経験あり。2018年に在ノルウェーNXTCAP社と合併でOctroll(株)を立ち上げ、独立。ヘルスケア領域での新規性の高い原料提案を行っている。